

## 小中学生作文コンクール 最優秀賞受賞作品

### 「人は助けられ助ける」

川口市立戸塚北小学校 四年 久保 花楓

わたしのお兄ちゃんは、しょうがいがあります。

お兄ちゃんは、生まれて五十日で大きな病気になり、のうの手じゅつをして命は助かりましたが、後いしょうで今は、足にそうつづをつけて歩いています。言葉ははなせません。

それでも、楽しい時は声をだしてわらってつらい時や悲しい時は、声をだして泣きます。おじっている時は、手や足をばたばたさせて体全体でおじります。

今、お兄ちゃんは、たくさんの人の力をかりて、生活しています。学校に行く時は、バスに乗って運転手の人につれていってもらいます。学校では、先生たちに、着がえをさせてもらったり、ごはんを食べさせてもらったり、いろいろなことを教えてもらっています。学校が終わったらデイサービスにいろいろなことにつれていってもらったり、遊びなどで学んだりしています。いえでは家族がおぶろにいれてあげたりいっしょに遊んだりしています。家にヘルパーさんが来て家族がいない時に家族にかわってお世わをしてくれます。家の周りの人にも声をかけ何かあった時は、おねがいしてあります。お兄ちゃんは、たくさんの人に助けてもらっています。でも、きょうにお兄ちゃんに助けてもらっていることもあります。それは、お兄ちゃんのわらった顔です。お兄ちゃんのわらった顔は、本当に楽しそうで顔をくしゃくしゃにして口を大きくあけて大きな声でわらいます。お兄ちゃんのエ顔には、周りの人を元気にして幸せな気持ちにさせるぶじきなパワーがあります。

人はみんな、だれかに助けてもらいだれかを助けて生活しているのだと思います。そばに居るだけでその人の力になり助けているのだと思います。